

# Slave to the Night

For adult only

mechi

## もくじ

その日	4
更生	9
部屋	11
奴隸	14
ウィル	18
自覚	21
理由	25
男娼	29
ロボット	36
望み	42
その夜	49

## 登場人物

ジル／ウィル：トラウマ持ちの男娼

クロウ：ギャングのボス、ソシオパス、ジルより少し年下

このたびは、当同人誌を

お手にとっていただき、誠にありがとうございました。

お手に取って読みたいと思っていただき、ありがとうございます。

この本は、2021年に発行した同人誌を受注頒布用に整えたものです。

お楽しみいただけましたら幸いです。

タロットカードの星やソードの10の逆位置が示唆するような、絶望の先の光は僕には無縁だ。歩いても歩いても闇しか見えず、どこにも救いなんかない。

僕が今、かろうじて生きていけるのはここ、イースト・ロンドンの男娼館だ。逃げるすべもなく、心と体が朽ちていくのをただ待つだけの日々を繰り返している。

## その日

今日の客は、下品な医者風の男だつた。もう数週間交

換されていない湿ったシーツに這いつくばり、尻肉を舐めまわされる。ろくな前戯もないままペニスを尻にねじ込まれて悶絶した時、支配人と誰かが話しているのがボソボソと聞こえた。

「外に出ろジル、身請けだ」

言われるまま焦つて服を着込む僕に、支配人が唾を吐いた。

顔を向ければ、小さな除き窓の向こうで見知らぬ男が僕を見下ろしていた。年齢は30代後半といったところ

か、成熟した青年が壮年に成り代わる年代特有の美しさがあつた。ワックスで丁寧に七三に分けられた髪や小綺麗に整つた無精髭には、ここには不釣り合いな清潔感がある。印象的な大きな瞳は僕を不愉快そうに見つめ、訳はわからないが怒っているように見えた。ドラッグで霞む記憶をどれだけ辿つてもその男との面識はなく、クレームを受けるような身に覚えはなかつた。体内の男根が動き始めた痛みに、その男に意識を向けていられなくなる。客が3度腰を僕にぶつけた時だつた。突然この小部屋に踏み込んできた支配人が客を僕から引き剥がし、僕に「服を着ろ」と命じて客を追い出した。

僕を、身請け？ 誰が…？ 予想もしていなかつた言葉に混乱した。僕に常連客はいなくもないが多くは物好きな男達で、わざわざとうが立つた男を身請けするよ